

心理療法の会（令和6年度）実績

回数	日付	テーマ	講師	内 容
1	4/25	レジリエンスの背後にあるカオス理論	時川ちづる 臨床心理士 (14773)	テーマは「レジリエンスの背後にある回復のメカニズム（複雑性の科学）」です。支援者が対峙したクライアントの回復力をどう扱っていくのか、そこには支援者の立ち位置が大きく影響してくると思っています。「クライアントがどこに向かっているのか」「クライアントの回復力をどう扱って行くのか」「そこに巻き込まれる家族をどう扱っていくのか」過去・現在・将来につながるその回復のメカニズムをしっかり捉えることで目先にとらわれない支援者としての揺るがない立ち位置を探りました。それぞれのメンバーの臨床に向かう態度と覚悟と工夫を聞くことができました。
2	6/1	プチ虐待	佐伯敦子 臨床心理士 (23078)	日常の子育てにおいて親の思いとは逆に知らず知らずに子どものところを傷つけてしまっていることがあります。基本的な虐待の種類と親の特徴をまず復習したあと、「プチ虐待」とはどういう状態なのかを学びました。これが続けば子どもの心に傷を残すことになり子どもの自主性や自尊感情に影響を与えてしまいます。親は殆どの場合しつけと思っています。しかし、繰り返すことで発達性トラウマ障害という子どもの脳にじわじわとダメージを与えることの恐ろしさの深刻さを学び増した。臨床家が「虐待」の知識をベースに「プチ虐待」という視点に目を向けることで、クライアントさんの子育てあるあるを共有することができ、その結果、子どものところを守る子育てを提言できることが学べました。
3	6/29	事例検討	下川路友美 臨床心理士 (40494)	自分のところを自覚出来ない20歳の女性についての事例検討会。 母親との関係の中で、関係性をみつめようとしなない女性。いつも自己犠牲的な言動の背後にある2者関係が見えてきました。今、母や親族に振り回され自分らしく生きれないCLの苦しみを参加者で共有できました。CLとTHの間に起る間主観性も共に体験できた会となりました。
4	9/28	学校ネットワーク	石橋めくみ 公認心理師 (第89218号)	『学校を中心として教育相談ネットワーク』—学校からSCへ、SCから学校へ— です。今回は現場で長く教諭として実践してこられて教育相談の経験も豊富な公認心理師の先生からのお話です。現在はスクールカウンセラーとして学校の現場でご活躍されておられます。そんな先生が思われる学校とSCとの連携のポイントなどをたくさんの多職種からの視点でお話がぎけました。また、学校以外の現場での多職種協働のコツなど共通する事柄を出し合えました。
5	10/19	虐待親にもケアを	奥田悦子 臨床心理士 (21221)	『虐待の親にもケアを』森田ゆり編著 を中心に虐待する親へのアプローチを考えていきます。—生きる力を取り戻すMYTREEプログラム—として親ケアのノウハウを学びます。 グループの活用の仕方や継続のための工夫など普段の臨床での参加者の知見を多く出し合うことが聞きました。また、親のケアの重要性をどのことなる臨床現場でも重要であることを確認し合うことができたくさんの参加者からの思いを聞けました。

6	11/30	子どものトラウマの理解とケア	田代佳織 臨床心理士 (36125)	『子どものトラウマの理解とケア』です。 手がつけられない子！変わった子！ただのわがまま！怠け！と捉えがちな子どもの中には言葉に表現出来ないトラウマがあるのかもという視点は子育てにおいて重要なアセスメントの上での心理士の力量にも関係し心理士の自己研鑽や経験を深めることの大切さを学びました。 大人のクライアントからの幼少期の語りを聞くとときもこの視点はとても役に立つことがどの臨床現場でも共通の Point となることを認識させられました。
7	1/25	ナラティブ・エクスポートセラピー	廣渡 綾 臨床心理士 (15942)	トラウマ治療での暴露療法という荒治療的な心理療法はクライアントさんを危険にさらすことが予想され、相当の熟練が必要と思われるが、ナラティブな語りを記録し、セラピーの始めに毎回心理士がまとめた語りの記録を朗読することから始る。トラウマ体験だけではなく、人生の記録をいいときも悪いときも人生を俯瞰して繰り返したことで癒やしが訪れるとのこと。本人の語られた内容だからこそ暴露に耐えられるのだと。まさかのナラティブとエクスポートの融合に参加者は引き込まれていました。講義後のディスカッションがとても盛り上がる会でした。
8	2/22	依存症	西村奈都子 公認心理師 (第 58699 号)	依存症というと以前は飲酒や薬物、買い物依存に窃盗など社会的にうけいれられないものが殆どでした。現代は SNS 依存、ゲーム依存など若年層にも依存の概念が広がってきました。おたく分化や二次元半のアイドルなどにのめり込んでいく若者も多く見られます。それなりに社会権を得ています。今回は依存とは何かという基本的な概念からの講義から始まり、それらと上手に付き合っていく方法を学びました。依存と社会権の間を行ったり来たりの治療現場の事例もとても参考になりました。誰でも依存傾向と上手に付き合っているのだとクライアント理解につながる会でした。